

安倍政権が掲げる「女性活躍」。だが足元の政界はと言えば、昨年の衆院選で候補者に占める女性の割合は17.7%。国政選挙の候補者を「2020年までに3割」にする政府目標にはほど遠い。当選1回の女性議員3人が与野党を超えて、子育てとの両立の壁、そのサバイバル術、そしてめざす国会像を語り合った。

## 女性議員の現状

## 子を持つ1回生議員が語り合う

伊藤孝恵 まず政治家の志を立てる壁があって、それを乗り越える候補者になる壁、さらに選挙という壁があった。どの壁を越えてもまた大変。育休中に参院選に出馬したので「けしからん」「子どもどうするんだ」と批判されました。

大沼瑞穂 自民党の場合、世襲で選挙区が埋まっている場合も多く、厳しい選挙区じゃないと出られない。私の選挙区は相手候補も女性でした。でもデメリットはメリットに変えたい。民間も女性管理職が道をひらいていかなきゃいけないこともありますね。

池田真紀 私たちみんな公募候補ですね。私は最初の選挙が落下傘候補で、選挙区替えもあった。シングルマザーで2人の息子を育てました。20年前に比べて子育て支



伊藤孝恵さん(42)

民進

リクルート在職時、育休中に16年参院選(愛知選挙区)に出馬、初当選。党国会対策副委員長。家族は夫と4歳長女、3歳次女。

## 育休中の出馬 批判された

援政策は増えたけれど、子どもの視点の政策を考えることも重要。

大沼 当選したときは娘が1歳。朝8時に始まる党の部会から、夜の3次会まで全部付き合っていたら倒れちゃう。だから朝は子どもとの時間と割り切って活動しました。

伊藤 部会や夜の会合をさぼると幽霊議員と言われるので。人脈をつくり、勉強して、地元を一生懸命回るのが議員だけど、子育てしながらだと大変。娘が待機児童なの



大沼瑞穂さん(39)

自民

13年参院選(山形選挙区)で初当選。厚生労働政務官、元NHK記者。慶大院法学研究科修了。家族は夫と5歳長女。

## 朝は子の時間と割り切る

で、よく議員会館に連れてきます。

池田 息子が別々の保育園になったりして、通いやすい保育園を探して6回引っ越した。職業や社会的立場の違うママたち、子どもたちの実態を多く見てきた分、経験を政策形成に生かしたい。

大沼 女性活躍推進法案を党内で議論中、「男性の育児参加推進」という視点が入っていないと女性議員から指摘、盛り込まれた。改正児童虐待防止法、乳児用液体ミルク、家事代行の特区といった



池田真紀さん(45)

立憲

17年衆院選(比例北海道)で初当選。社会福祉士。シングルマザーとして福祉の現場で働きながら、2人の息子を成人させた。

## 子の視点の政策 考える必要

提案も。男性議員にも生活に密着した視点を持ってもらわないといけないんですけど。伊藤 女性議員の得意分野を決めてすみ分けてしまうと、活躍の場を狭めてしまいかねない。先日、9党から参加を募って「超党派ママパパ議員連盟」を立ち上げた。ワンストップで全党に陳情できるツールになればと期待している。

大沼 国会議員は、未来に向けて法律や制度をつくらなくてはいけません。女性が少ない仕事。増えないと、女性総理を選ぼうとする空気も生まれにくいのは。議員職への男女の平等なアクセス権が保障されることは大事だと思う。

池田 多様な女性の参画が、多様な人の参画につながる。与野党を超えて、多様なある国会にしていきたい。(聞き手・構成＝明葉麻子)